

たまつくり
「玉造」のまちの
起源は「玉作り」

古代、玉造には技能集団「玉作部」が暮らしていたとされます。玉造の地は、玉(勾玉)作りから始まったのです。

「大阪市民第1号」が暮らした地

この地は、縄文時代に「大阪市民第1号」が暮らした場所でした。森の宮遺跡からは、人骨の他、大量の貝殻が発掘されました。

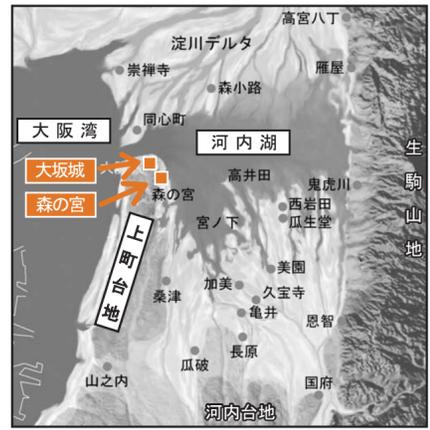
右上の図のように、大阪は昔、広く海の中にあり、その海に突き出した半島が上町台地。海はその後、河内湖となり、玉造は河内湖の湖畔の地に位置してました。かつて北国分町という町があったのは、この地に摂津の国府があったことに因んでいます。

玉造の地は古代から重要な地とされていたのです。

たまつくり
技能集団「玉作部」の領地

玉造は、なぜ「玉造」というのでしょうか。島根県の玉造温泉や各地に玉造神社があるように、「玉造」は全国にある地名、名称です。これは、勾玉(まがたま)づくりを業とした、古代の技能集団に由来し、この地は、大和朝廷に関わる「玉作部」の住居地であったと伝えられています。

玉造稲荷神社境内にある難波・玉造資料館には、勾玉やその製作工程等関連する資料が展示されています。玉造では、建物工事の時、よく玉類が出土するそうです。



「大阪遺跡 出土品・遺構は語る なにわ発掘物語」-河内湖の古地図
創元社発行・大阪市文化財協会編(2008)より加筆

かささぎのみや
河内湖のほとりに創建された鶴森宮

この地が古くから重要であったことを今に伝えるものが現存しています。JR森ノ宮駅の改札口から見える鶴森宮(森之宮神社)は、聖徳太子創建の1400年の歴史を持つ由緒ある神社で、四天王寺の守護神とし、もとの四天王寺とも言われています。今はこぢんまりとしていますが、かつての神領は、現在の城東区や東大阪市にまで及びました。鶴森宮の名の由来は、聖徳太子の新羅國への使者が鶴(俗に朝鮮鳥)を持ち帰り、森で飼われたことに因みます。



森ノ宮の地名の由来はこの神社とこのこと!



「摂津名所図会」の玉造稲荷神社(江戸時代は豊津稲荷社と紹介されています)

古代の営みを今に伝える玉造稲荷神社

古代から現在に至るまで、玉造を知るにはまず、玉造稲荷神社に足を運んでください。紀元前12年に創祀(そうし)された古社で、伏見稲荷大社より古い歴史を持つ元稲荷といわれ、本殿の前には狐ではなく、狛犬がおられます。

また、飛鳥時代、物部氏との争いに勝利した蘇我氏側の聖徳太子が観音堂を建立しました。大坂城との関わりが深く、豊臣家や江戸時代の歴代の城代から大坂城の鎮守神として崇敬されていました。大坂33ヶ所観音めぐりの10番札所でもありました。

現在は南側が正面となっていますが、かつては、西側に鳥居があり、本殿奥の東側には、京都の清水寺のような舞台があり、裏面の「摂津名所図会」にあるように、河内平野から生駒山まで一望できました。東雲町(しのめちよう)



詳しく話をしていただいた 柳寛(ねが)の鈴木さん

大阪市民が暮らした初めての地である玉造は、日本の歴史の転換を見続けてきた地でもあります。技能集団、戦国武将、町人と、まちの主が変わるごとに大きく動いたまちづくり。市内有数の日の出の名所*は、常に時代を先導してきたのかもしれない。

*浪花百景「玉造稲荷神社」の東側にある清水寺のような舞台からの眺めが有名でした。旧町名「東雲町」は東方の生駒山からの曙の景色が由来。



大坂城の弱点に集められた戦国武将

連合振興町会や交差点名に名が残る「城南」。大坂城三の丸となったこの時代の主役は自らの意志と時代の波に揺れ動いた戦国武将。

広大な豊臣期の大坂城とその弱点の地、玉造

最近は大坂城の堀の周りをジョギングする人をよく見かけます。運動にも気分転換にもちょうどよい距離ですね。しかし、豊臣時代の大坂城ならそうはいきません。現在の玉造の地が大坂城の三の丸となるほど、豊臣時代は広大な大きさを誇りました。右図は、大坂冬の陣の配陣図で、点線の範囲がおおよそ現在の玉造にあたります。上町台地の北端に築かれた大坂城は、大坂冬の陣で徳川方が攻めあぐねたことに象徴されるように、淀川や大和川をはじめ、川や堀に幾重にも囲まれた難攻不落の城でした。

三の丸となった玉造に集められた戦国武将

大坂城の唯一の欠点は、平野が広がる南側。大坂冬の陣の際に真田幸村が真田丸と呼ばれた出城を築き、防戦したのもこの場所で、玉造の南端にあたる場所でした。豊臣側は、その弱点を補うために、玉造の地を大坂城の三の丸に取り込み、五大老の前田利家や宇喜多秀家をはじめてする名だたる武将に屋敷を構えさせ、有事に備えたのです。旧町名の由来となった屋敷も複数ありました。紀伊国町は浅野幸長、越中町は細川忠興、半入町は青木半入、(右へ)

関ヶ原にまつわる悲劇の跡、越中井

日本の歴史を大きく変え、大阪の歴史、そして大坂城の歴史、またその大坂城に関連の深い玉造の歴史を変えたのも、天下分け目の関ヶ原の合戦でした。関ヶ原にまつわる、もうひとつの悲劇こそ、ガラシャの物語でした。

この地に屋敷を構えていた細川越中守忠興は、関ヶ原の合戦で徳川方につき、その妻のガラシャが石田三成から人質として大坂城に入るように命じられました。越中井は、家来に胸を突かせて命を落とし、火を放った屋敷跡に唯一残った邸内の井戸の跡です。本能寺の変を起こし、秀吉に討たれた明智光秀の娘として生まれ、豊臣方につかなかつた夫のために命を落としたガラシャのことを伝える越中井の石碑は昭和期に大阪市婦人連合会により建てられました。

伊勢参りの安全を支えた浪花講

「一生に一度は伊勢参り」と、江戸時代に大衆に流行したお蔭参り。しかし、当時の旅は、事件・事故・ぼったくり等、不安だらけでした。

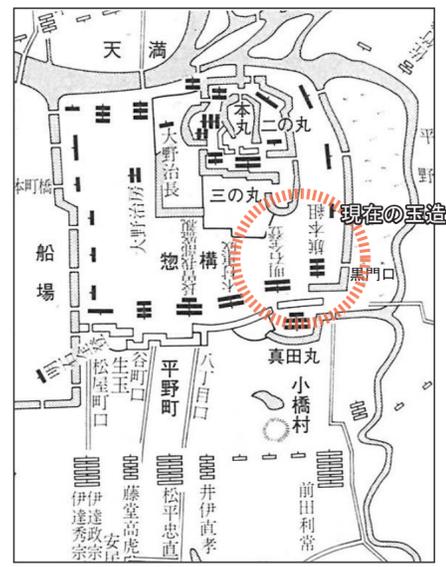
玉造稲荷神社を拠点とした「浪花講」は、その不安を解消するためにできた旅行社のような組織で、後にそのしくみは全国の旅館・ホテルに広がりました。旅人は右のようなガイドブックを手に、「浪花講」の看板の掲げられた優良旅館屋をめぐらしたとのこと。



各宿駅ごとに講加盟の旅籠や休所の名前や、道中記として役立つ道案内情報を掲載した「浪花講定宿帳」

知って得する! 地域情報

- 鶴森宮(通称:森之宮神社) ホームページ
<http://homepage2.nifty.com/kasasagimorinomiya/>
- 玉造稲荷神社 ホームページ
<http://www.inari.or.jp/>
- 玉造黒門越瓜保存会 ホームページ
<http://www.tamatsukuri.net/>



「大坂冬の陣両軍配陣図(慶長19年)」より加筆
(新修 大阪市史 第三巻/新修大阪市史編集委員会 編)

元伊勢町は小出吉政、仁右衛門町は増田長盛に由来しています。

茶人の千利休の屋敷もこの地にありました。千利休が良い水の湧いたこの地で茶を点てたことは、近年、体育の日に玉造稲荷神社で行われている豊臣家・徳川家ゆかりの茶会「だんご茶会」という行事で語り継がれています。



「越中井戸」か? 「越中井」か?

さて、この越中井、現地に行くと、重い石の蓋がかけられた重厚な井戸があります。

物語を醸しているのは石碑の文字で、「越中井」と書かれています。しかし、地域の人たちは、この井戸を「エッチュウイド」と呼んでいますし、江戸時代刊行の摂津名所図会にも越中井戸と明記されていました。一方、ガイドブックの中には、「エッチュウイ」と表記し、「イド」と読まないものもあります。漢字の表記は、文語調では、「イド」のことを「井戸」と書かず「井」とだけ表記することもあり、「越中井」と書いて「エッチュウイド」と読むことはおかしくありません。

地元の方は「私たちは子どもの頃から、エッチュウイドと呼んでいたので、この方が親しみがありません」とのこと。



書き方と読み方みんなで「どう読む?」

耳寄りばなし
大坂城の陥落と真田幸村の抜け穴

歴史好きでなくても、良く知られている真田幸村。かつての玉造の南端の地、現在の天王寺区にある三光神社には、幸村が大坂城を抜け出すために掘られたといわれる真田の抜け穴跡があります。

徳川方が大坂城へ攻め込むための坑道説、キツネの巣穴説等の諸説があり、真相は明らかではありません。



三光神社にある「抜け穴」と呼ばれる場所。鉄門には真田家の家紋「六文銭」が見られますが、後から取り付けられたとも...

三の丸から町人のまち、文教地区へ

平和な世となり、主役は町人に。お蔭参りの出発地と歴史の散歩道の観光拠点、緑豊かで教会、学校のある文教地区に。

移民の活躍で町人のまちへ

徳川の世となり、大坂に平和が訪れると、玉造は再び大坂城三の丸から町人のまちへと大きく環境が変わりました。平和な時代に広大な大坂城は必要なくなり、玉造のまちは再開発されることとなったのです。

開発の民間活力として期待されたのは、京都伏見からの大工職人。伏見城が廃城となったことや、夏の陣後の大坂城の再建という大規模な公共事業があったことから、大人数が移住しました。旧町名の左官町はこれらに由来しています。

町人のまちとして発展した玉造ですが、特に特定の産業がまちを支えたというわけではありません。ただ、天保9(1838)年東側にあった猫間川から井路(いじ=水路)を引き込み、現在の玉造幼稚園の辺りに船だまりをつくり、物資の運搬拠点をされました。銭湯「玉造温泉」の裏にある伏見橋跡が井路の名残を伝えています。

大坂城の守護神として知られていた玉造稲荷神社は、平和な世のとも、お蔭参り(伊勢参り)の大坂からの出発地として、猫間川に架かる黒門橋の手前にあった二軒茶屋とともに、浪花百景に描かれる等、観光拠点としても有名になりました。

屋敷跡にできた教会や学校

明治時代以降、町人のまちとして、一般の住宅や会社等が建てられた玉造は、大きな屋敷跡に、他の地域にはない施設もいくつかできました。明治27(1894)年に聖アグネス聖堂として創立された聖マリア大聖堂は、歴史の散歩道にも面していて、地域のシンボルとなっています。

聖堂があるのは、細川越中守忠興の屋敷があった辺りで、キリシタンであった細川ガラシャ夫人ゆかりの地を意識して建てられたと推測されます。パイオルガンの荘厳な響きに浸り、この地のドラマを想像してみたいかがでしょう。

大阪城の真南の大きな土地に、昭和25(1950)年オープンしたのが日生球場。平成9(1997)年閉鎖され、現在は駐車場等で仮利用されています。今後、何らかの建設工事が行われれば、豊臣時代、徳川時代の屋敷跡等が発掘され、新たな事実が明らかになると期待されます。

玉造は、大阪の都心でも緑豊かな地域。緑が多いほかに、教会や学校が複数あることも、文教地区としてのイメージを与えているのです。

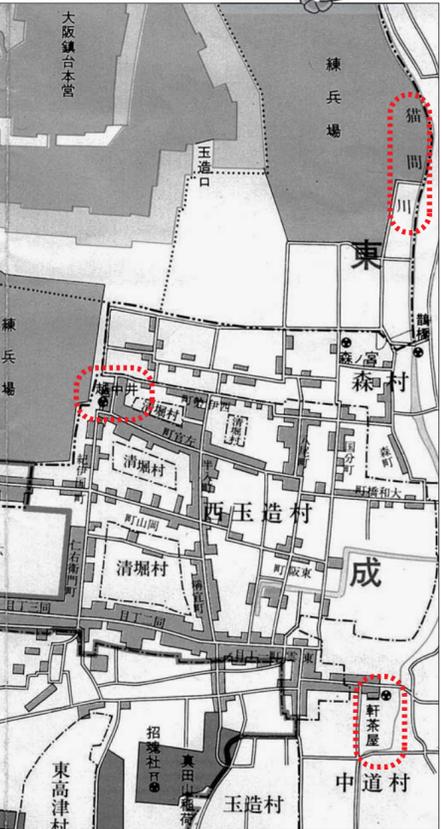
たまつくりふるもん、しほり
「なにわの伝統野菜」玉造黒門越(白)瓜

江戸時代からこの辺りの畑では、質のよい越(白)瓜が栽培されていました。質のよいものに栽培地のブランドがつくのは今も昔も同じで、この瓜は、近くにあった黒門に因んで、「黒門越瓜」となりました。

では黒門とはどこにあるのか? 日本橋の黒門市場ではありません。豊臣時代の大坂城の玉造口の城門が黒塗りで「黒門」と呼ばれていたのです。

平成14(2002)年に玉造稲荷神社の協力で復活した玉造黒門越瓜は、なにわの伝統野菜に認証されました。

中央区食生活改善推進協議会(食推協)の取組みで中央区保健福祉センター2階テラスでも栽培され、オーブフォーイル培養等、現代ならではのメニューも考案されています。



「新修 大阪市史 第十巻 歴史地図 図6明治前期の大阪-市制施行前」より
(新修大阪市史編集委員会 編)

知って得する! 地域情報

- 三光神社ホームページ
<http://www.eonet.ne.jp/~sankou/>
- (大阪カテドラル)聖マリア大聖堂
・聖マリア大聖堂は中央区役所ホームページの「観光・文化」の「建造物」という項目の中に詳しく掲載されています
<http://www.city.osaka.lg.jp/chuo/page/000004354.html>

玉造かわいのあゆみ-まち、神社

縄文~弥生時代	「大阪市民第1号」が暮らした(森の宮遺跡で確認)
紀元前12年	玉造稲荷神社創祀
589年	鶴森宮創建
慶長3(1598)年	諸大名の邸宅のあった玉造の地が三の丸に
慶長5(1600)年	関ヶ原の戦い、細川ガラシャ家臣に胸を突きさせ死亡
慶長19(1614)年	大坂冬の陣
慶長20(1615)年	大坂夏の陣、松平忠明大坂入封、三の丸開放
天保9(1838)年頃	猫間川の井路が掘られる
明治3(1870)年	大阪砲兵工廠(当時は「造兵司」)を大坂城三の丸に設置
明治27(1894)年	聖マリア教会(当時は聖アグネス教会)創立
昭和25(1950)年	日生球場オープン。平成9(1997)年閉鎖
昭和54(1979)年	住居表示変更、越中町等の旧町名が消える
平成17(2005)年	玉造黒門越瓜がなにわの伝統野菜に認証される

知って得する! 地域情報

- 大阪観光ボランティアガイド協会
平成8年に設立され、近年110余名の会員が4万人を超える観光客を案内しています。詳しくは、下記ホームページか、現地問合せ 090-3059-6923 まで。
<http://www.octb.jp/ovgc-index/>
- 大阪城界隈ガイド
大手門コース/青屋口コース/玉造口コース/難波宮跡コース 等
- 上町台地北部ガイド
大阪城ゆかりコース/幕末史跡コース/文学史巡りコース 等
- ミナミ界隈ガイド
道頓堀こいさんコース/心斎橋散策コース/文学碑・史跡探索 等
- キタ界隈ガイド
近松文学コース/水都中之島コース/天満の天神さんコース 等



イラストを使って詳しく案内